

平成 21 年度鎌倉食育推進会議 会議録

日時：平成 22 年 3 月 11 日（木） 午後 6 時 30 分～午後 8 時

場所：鎌倉生涯学習センター 第 5 集会室

出席者：＜委員＞中村委員、塚田委員、安齋委員、大竹委員、大場委員、富田委員、
藤本委員、牧田委員、三浦委員

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

山本福祉政策課長、奈須保育課長、野田高齢者いきいき課長、
相澤資源循環課長、大澤学務課長、八神教育指導課長、
島巡教育センター長、鈴木生涯学習課長代理、山田青少年課長、
西岡大船中学校教頭

事務局（部長及び市民健康課）

石井健康福祉部長、相川市民健康課長、河合係長、
深谷管理栄養士、片瀬保健師

事務局（河合係長）

みなさまこんばんは。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

定刻になりました。中村会長、よろしく願いいたします。

中村会長

みなさま、こんばんは。今日はお忙しい中、お寒い中ご参加いただきましてほんとうにありがとうございます。何か、久しぶりの食育推進会議かなと思っておりますが。昨年の暮れに国のほうの食育会議がありまして、最近国が発表したデータの中です、日本人で肥満者の割合が減り始めたという、とてもいいニュースが入りこんできました。世界で肥満を減らし始める国というのは世界初めてだろうと思うんです。肥満対策というのは実は簡単なようで、なかなか難しく、未だ肥満を減らした国は存在しないというくらい言われている。日本がそういうことを成功したら、とてもいい話だと思うんです。ところが一方です、若者の食生活が非常に問題が大きいというのが指摘されまして、特に若い女性のダイエット志向がひどくなって、かつてこれは産婦人科の先生も指導したことがあるのですが、妊娠中にですね、ダイエットをされて、マタニティダイエットとか、かなりしぼりの強い指導をやったことがあるんです。その若い女性たちが妊娠前後に食べるのを制限してですね、実は低体重出生児数が、先進国の中では一番割合が高くなってきているんです。これは戦後の栄養失調状態に匹敵するくらいの低体重出生児が出始めてきております。これはこれからその若い層への食育をすすめるなければいけないのではないかとというのが国のほうの会議で出ました。

もう一つ、食育をこれからすすめていくのにどうしたらいいのかというのに色々アイディアが出たんですが、地域の力、地域がもつ力を、もっと食育に展開したらどうかというふうな話がありました。地域の力っていうのは地産地消っていうのが以前からあるんですが、そういう話だけではなくて、もっとこう地域に食育レストランをつくったらどうかとかですね、地域のもつ、例えばスーパーに食育のコーナーをつくったらどうかとか、伝統的に地域で一緒に食事をするというのは今までもお祭りのときとか、冠婚葬祭のときには地域がもっていたんですが、それが段々崩れてきて、一緒に食事をする場面がなくなってきている。もう一度、その地域がもつ、皆で食事をしながら皆で健康になっていこう、楽しい人生を送っていこうというところを取り戻す必要があるのではないかというような話がしきりに出ました。これはこの鎌倉でも少し検討してもいいのではないかなというふうに感じております。何とぞ、今日はちょっと寒いようですが、最後までご議論のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。では、事務局から何かありますでしょうか。

事務局（河合係長）

本日推進会議の出席者は9人です。欠席者が柿澤委員、柳下委員の2名で、委員の過半数が出席されておりますので、鎌倉食育推進会議設置要綱第6条により、平成21年度第1回鎌倉食育推進会議が成立いたしました。なお、傍聴者につきましては、本日は希望者はございませんでした。

中村会長

ありがとうございました。では只今、事務局から推進会議の成立について報告がありました。これより、平成21年度の第1回鎌倉食育推進会議を開会いたします。審議に入ります前に、事務局から、何かございますでしょうか。

事務局（河合係長）

座ったまま、失礼いたします。まず本日、会場が第7会議室から第5に変更になりました。大変申し訳ございませんでした。では次に、推進会議委員の変更がございましたので、ここで紹介させていただきます。平成21年4月1日付けで、株式会社イトーヨーカドー大船店店長が矢野佳之様から大場孝幸様に変更されました。これを受けまして、流通業者の代表として大場孝幸様に鎌倉食育推進会議委員就任の承諾を得ました。任期につきましては、残任期間の平成22年7月6日までとなります。

中村会長

ありがとうございました。では新委員でいらっしゃいます大場様の方から、ご挨拶のほどよろしくお願ひいたします。

大場委員

こんばんは。イトーヨーカドー大船店の店長をしております大場と申します。昨年の6月に矢野からイトーヨーカドー大船店を引き継ぎまして、こちらの委員もそのまま引き継がせていただいております。その際、食育というのやはり非常に大事なことだと、自分自身捉えております。鎌倉女子大が近くにありまして、その学生さんたちが6月から11月までだったか、大船店に入っていただいて、食育ということで一緒にイベントを立ち上げて、お客さまの評判も非常によかったです。それからそのあとが2年生から1年生へ引き継げなくて、今はなかなか食育ということで一緒にやっていくということはないんですけれども、ただ自分たちとしてもやはり食に対する意識というのが非常に高く、また逆に食に対する知らないこと、旬の食材を知らない子どもたちということも非常に増えてきてますので、そういう旬のときに旬のものを食べて健康状態をよくするというのかな、いいものを食べるということも非常に大事。私たち、イトーヨーカドーとしては旬のものを旬のときにしっかり出して、おいしい食材でおいしく食べていただくということも店としてもやっていきたいと思っています。さらに鎌倉野菜というものも私も取り入れてますので、そういうものの推進も一緒にやっていきたいと思っています。より一層食育については一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

中村会長

ありがとうございました。では、会議次第に従いまして、議題1 鎌倉食育推進計画行動計画の進捗状況及び平成22年度の取り組みについて、事務局からご説明のほどよろしくお願いいたします。

事務局（河合係長）

はい。では、資料の確認をさせていただきます。お手元に先に資料を送らせていただいております。資料1-1食育推進計画行動計画、東になっているものですね。そして、別表1、2枚組になっています、A3の長い2枚綴りになっているもの。別表1、別表2。あと資料1-2、次に資料2、資料3。こちらまでが送付させていただきます。そして本日の追加資料としまして、机の上に置かせていただいております資料4、A4で左の頭の方に平成21年度食育推進体制と書かれたもの。次に資料5。資料6、A3の横のもの。そして今日別表1で括弧差し替えとなっているものがございますが、こちらは先日送らせていただいております資料の別表1、2と差し替えてさせていただきます。どこが間違えていたかといいますと、差し替えの方を見ていただきたいのですが、真ん中のあたり、緑色のラインマーカーが引かれていると思いますが、こちらが抜け落ちておりましたので、こちらを追加しました。こちらを資料としてお使いください。

中村会長

何か、足りないものはございますか。では事務局の方から。

事務局（河合係長）

では、議題に入る前に、大場委員が新しく加わりましたので鎌倉市における平成21年度の食育体制についてご説明いたします。資料4をご覧ください。

鎌倉市では平成20年3月に食育基本法第18条を受けて、「鎌倉食育推進計画」を策定いたしました。この計画では、食育を市民一人ひとりが自分の問題として考え、行政だけでなく、市民・事業者・団体等がそれぞれに取組んでいただくために、目標を立てて実行していただき食育を推進していただくことを目的としています。

市では、平成20年7月に学識者を含めた各団体の代表11名で構成する食育推進会議を組織いたしました。この、推進会議は資料4の2つ目の枠内に記載されておりますとおり、食育推進計画の進捗状況を把握・点検し、進捗状況に応じた計画の見直し、次期目標値の設定についてご協議いただき、また、各団体の代表として、推進計画を団体などへPRしていただくことを担っていただいております。

市内部の組織としましては、庁内13課と小学校中学校の代表で15名で構成された食育連絡協議会を組織し、庁内の食育推進に関して、連絡協議を行っています。本日、後ろの方に食育連絡協議会委員も会議に参加しております。食育連絡協議会には、下部組織として庁内13課と小学校中学校代表として各2名の17名で構成する食育連絡協議会検討会を組織し、鎌倉市の行動計画の策定と、食育カレッジをはじめとした行動計画を実施しています。庁内では、食についての啓発事業として「かまくら食育カレッジ」を開催しております。それは、食に関心を持っていただくために一般市民の方を対象とした「カレッジアラカルト」と、市民健康課が実施している地域で食育を担う人材を養成するための年間16日程度の講座「カレッジ養成学科」で構成されています。「カレッジ養成学科」を修了した市民を個人会員、既に市内で活動し鎌倉食育推進計画に賛同してくださった市民団体を団体会員とし食育ボランティア「かまくら食育クラブ」を組織して、地域活動への参加や市の事業への参加、講座の企画実施、情報紙の作成など行っています。一番下の欄にあります「かまくら食会議」は鎌倉の食に関わる生産者・事業者のネットワークですが、こちらについてはまだ立ち上がっていません。推進体制については以上です。

中村会長

ありがとうございました。

ここまで、何かご質問はありますか。食育体制に関して。ご質問、ございませんか。

（質疑・応答なし）

ないようでしたら、では、引き続き、事務局の方でご説明をお願いします。

事務局（河合係長）

では、議題1の鎌倉食育推進計画行動計画の進捗状況及び平成22年度の取り組みのうち、初めに平成20年度の実績報告をさせていただきます。

資料1-1と資料5、資料6をご用意ください。

資料5と6につきまして、こちらは鎌倉食育推進計画からの抜粋になります。資料5、こちらは食育推進計画の全体像を示したもので、資料6は計画推進にあたっての行動計画や目標値を一表にしたものです。まず、この行動計画の構成についてご説明いたします。

資料1-1の1ページをご覧ください。こちらの1ページを例に取ってご説明いたします。表の一番上の左「食をとおした健康づくり」と書かれた欄がございますが、こちらの箇所には資料5の真ん中と資料6の左側のこちらに記載してあります食育推進計画の5つの柱を記載しています。5つの柱の欄の右側、資料1-1の1ページですけれども「基本施策」と書かれた欄には資料5の右側にあります「基本施策」を記載しています。

そして資料1-1の2段目の欄、左から指標、現状値、目標値は、こちらは資料6の右側ですね。右側の3つの欄を記載しています。よろしいでしょうか。資料1-1の1ページの下の大きな枠ですけれども、こちらの左の欄の「行動目標」、こちらは資料6の真ん中辺りにあります行動目標のうちの「市民の活動の拠点または市」という欄を記載しています。これらがベースになって、各課で項目ごとに詳細な計画を立て、1ページの左から2つ目の欄に行動計画として記載し、その目標に対する20年度の実績とそれを踏まえた21年度の課題と取り組みについて右の欄にそれぞれ記載してあります。では、20年度の報告と21年度の進捗状況についてご説明いたします。

資料1-1と別表1、2をご覧ください。別表1、2は差し替えの方となります。

平成20年度は行動計画作成初年度でありましたが、行政としての計画について、各課で目標として掲げた事業を実施し、平成21年度に向け課題と取り組み予定を整理し、それを受けて12月末現在までではありますけれども、こちらのとおり実績として記載してあります。

表の中、4ページをお開きください。

こちらは平成20年度の実績や、平成21年度4月から12月実績と書かれているところに別表1平成20年度鎌倉食育カレッジ集計を参照、または21年度の方につきましては別表2ということで記載させていただいていますが、これが差し替えとして今日お配りしましたA3縦の細かい表になっています。こちらが各課で実際に実施した事業について詳細を書かせていただいております。

このような表現が行動計画の実績等のところにたびたび出てまいりますので、出てきたものについてはこの表をご覧くださいというふうになっています。内容については

細かくご説明いたしませんけれど、見方としてはこのようになっております。

中村会長

ありがとうございます。平成 20 年度報告と平成 21 年度 12 月末までの進行状況をご説明していただいたわけですが、何かご質問はございますか。このかまくら食育カレッジというのはここではなかったんですか。

事務局（河合係長）

会場は色々なところなんですけれども。

中村会長

色々なところで。

事務局（河合係長）

鎌倉生涯学習センターの他にも学習センターが 4 つほど地域にございまして、そちらの会場や福祉センターというところでやったり、色々なところでやっております。

中村会長

何か、ご質問はございますか。このかまくら食育カレッジの参加者数の括弧に入っている人数は、募集人数と参加者数で括弧で書いてある。

事務局（河合係長）

申し訳ありません。こちら括弧書きの方はちょっと確認しておりませんので。お調べして皆様にお伝えしたいと思います。

中村会長

他にご質問は。はい。

牧田委員

資料 4 の中の平成 21 年度食育推進体制の中で一番下の部分でそれぞれの進捗がお書きいただいておりますが、一番下のかまくら食会議に関してはまだ計画進行はしていないということですが、これは 22 年度以降、具体的にこう何かアイデアをお持ちでいらっしゃるのでしょうか。事務局の方からちょっとご説明をいただければと思います。

事務局（河合係長）

また後の方で少し述べさせていただこうと思っておりましたが、実は平成 22 年が富岡商会さんが 100 周年記念という年を迎えるそうなんですけれども、食育推進会議が立

ち上がる少し前でしたけれども、鎌倉市内で何かシンボルになるような食品、例えば、けんちん汁とか、そういうものをつくって見たらどうかという話が一度あったというのがご記憶にあるかと思うのですが、それがちょっと立ち消えていたんですけれども、そういうお話をさせていただいていたことを富岡商会さんが覚えていただいていたので、何かイベントを一緒にやってみませんかというようなお誘いをいただきました。なので、まだ具体的に、どのようにやっていくか、考え方はできていないのですが、例えばそういうようなこともきっかけとして皆様とご協力しあって何かやるというのも一つではないかなというふうに考えております。

牧田委員

ありがとうございます。あのちょっと確認なんですけれど、富岡商会さんの話ってそれはいつ頃。最近。

事務局（河合係長）

最近です。

牧田委員

そうですか。

事務局（河合係長）

平成 22 年に入ってからで、1 月末とか、2 月くらいとか。

牧田委員

担当の方ですか。あちらもちょっと会社の体制が変わられたので、どうなのかなと思って。JR の関連会社に組み込まれましたよね。日本レストランシステムと全部変わられたので、内部体制がちょっと変わったと思うんですよ。ですから、そのへんが今ちょっと大丈夫なのかなと思ったんですけど。22 年になってからなんですね。

事務局（河合係長）

そうですね。それで私どもも一応、「年度ですか」ということで、イベントをやるのも、4 月から 3 月までなのかという話をしましたら、今年、平成 22 年が 100 周年なので 1 年間で 100 周年の記念の年と捉えているので、その中でできればいいかなというふうなことでお答えをいただきました。

中村会長

他にございますか。はい、どうぞ。

塚田委員

かまくら食育カレッジに参加なさる中でカレッジ育成学科に参加なさった方が今度のかまくら食育クラブの方に何か私がやりましょうというふうに、名乗りをあげて実際に行動した方というのは何%くらい、いらっしゃるのでしょうか。

中村会長

どうぞ。

事務局（河合係長）

現在、平成 21 年度の第 4 期を終了しまして、人数的には 60 人程度、修了者がおります。その中で 21 年度を修了したとはいえ、講座の 8 割方が終わらないと活動に参加できないというルールがありまして、実際に 60 人全員が参加しているかということ、そうではないのですが、毎月定例会というのを開催して、その会議に出させていただいたりとか、いろんなところでのイベントに参加して下さったり、核になっている方たちはだいたい 20 名程度です。地域の方でイベントを開催したり、またこういうのをやるんですけど、出てみませんかというようなお声かけをした場合はそちらの方に出向いたり、講師として出向いたり、そしてあとは自分たちでイベントを探してきたりということはしております、平成 20 年度よりも 21 年度というのは積極的に活動ができていると思います。

中村会長

いいでしょうか。

塚田委員

はい、ありがとうございました。

中村会長

他にございますか。できるだけご感想をいただきたいと思うのですが。

事務局（深谷管理栄養士）

事務局からよろしいでしょうか。先ほど、かまくら食育カレッジ集計のところでは括弧書きはどういう意味かというご質問をいただきました。そちらの回答になります。こちらにつきまして、市民健康課の事業になるのですが、市民健康課が実施する事業において、食や栄養に携わるものと健康、歩いたり、歯のことであったり、あとは生活のことであったりという、健康の部分のところセットになった講座というのが市民健康課は非常に多くありまして、食に関係のない健康の部分の講座を括弧で書かせていただいております。これはちょっとわかりにくいので、21 年度の最終集計のときに

はこちらの方は削除していきたいと思います。

中村会長

わかりました。これは直接食育に関係ない講座ですね。

事務局（河合係長）

はい。申し訳ございません。

中村会長

おわかりになりましたでしょうか。そうすると、本来、これは表にのせなくてよかつたところですね。わかりました。他にございますか。

（質疑・応答なし）

中村会長

なければ、では平成22年度の取り組み予定について事務局からご報告をお願いします。

事務局（河合係長）

資料1-1と資料1-2をご覧ください。

中村会長

資料1-1と資料1-2ですね。

事務局（河合係長）

平成21年度4月から12月末までの実績を見ると、平成20年度の課題と取り組み予定を受けて、前年から引き続き実施したものの、強化したものも含め、それぞれの課でそれぞれの行動計画を実行してきました。しかし、まだ、課題解決に至らないものなどあり、次年度に向けての各課の課題や取り組み予定について、行動計画の一番右の欄に記載しています。市民健康課を例に出して説明させていただきますが、例えば資料1-1の2ページですけれども、下の方に公立小学校、公立中学校の下に市民健康課がございます。こちらの方ですけれども、毎年同じようなことをやっているんですが、結局回数が上がればいいというものではありませんが、22年度の課題と取り組み予定としましては引き続き同程度の開催回数で継続、伝えられていない世代へのアプローチ方法を他課との連携を含めて検討し、事業の実施を目指すであったりとか、計画を引き続き前年同様程度開催しますということで、なかなかプラスアルファ、進捗するような目標をたてていないというもありますけれども、特に市民健康課も色々

な事業に取り組んでまいりましたけれども、平成21年度につきましては地域で食育を担う食育ボランティアの育成や活動支援などに力を入れてきました。その食育ボランティアである食育クラブは発足して間もなく、また、会員数が一気に倍以上に増え、なかなかまとまりが取れないということもあり、20年度は、市から提案した事業を行っていくことが多かった一年でした。平成21年度はクラブ員が組織作りに着手し、役割分担をすることで、自らの講座の企画・運営、情報紙を作成するための取材や編集、参加するイベントなども探し出す等、積極的に行動して、何を伝えたいか何をやりたいのか、きちんとクラブ内で話し合い実行することができるようになってきました。このように、食育ボランティアの育成や他課との共同で実施した事業、地域イベントなどへの参加など、単体の事業者・団体との連携などの働きかけはできてきたけれども、それは内側に向けての活動であり、外側への働きかけというのがまだまだできていない。

どの部分ができているのかをまとめたものが資料1-2です。こちらをご覧ください。一つ目は取り組みの柱で言いますと、「食をとおした健康づくり」そして、下の方の「食の わ でつなぐ地域づくり 食でつなぐネットワークづくり」の2本、こちらが書かれていますが、「食をとおした健康づくり」という柱では、行動目標として「生活リズムを整える」「中食・外食とうまくつきあう」の2つなんですけれども、ここでは日々忙しく、まだ自分の身体や健康についてあまり興味が持てない世代である青年期や壮年期に対し、自分の健康を守る方法のひとつである「食」についての様々な情報を提供し、いろいろな情報を得ることによって選択していく力を養ってもらうための啓発の場が少なかったことが課題としていえます。また2つ目の柱では、行動計画として「各地域の わ をつなぎ、地域の わ を広げる」「鎌倉の食を大切にする」の2つになりますけれども、外側との連携や情報共有というのはまだまだ弱いのでそこを強化することが課題といえます。資料4をお出しいただきたいんですけども、資料4の上の枠の中にあります右側の図ですね、こちらの方の組織がまだうまく機能できていないということになります。

そのため、2つの柱とそれに伴う4つの行動計画を強化するために、「食育交流会」というものを開催し、各団体との連携や情報共有を図っていこうと考えています。この交流会というのは、冒頭でもご説明しました資料4の一番下に記載しています「かまから食会議」に相当するものです。先ほど牧田委員からもご質問がありましたとおり、「何か交流会というものはないですか」、というところにあたります。先ほどもご説明をいたしましたけれども、富岡商会さんが創業100年の記念の年ということで、先方から食材などの提供をするので是非イベントやりませんかとお話をいただいています。こういうものをうまく利用するというのも一つですし、他に方法があれば、食交流会というのを開催していこうと考えています。また、食育基本法が制定されたあと、行政やその他団体・事業者などが食育について啓発を行って来ましたけれども、市民や事業者などがどのように意識が変わり、また数値的な変化などについて、市民健康

課では平成22年度にアンケート調査を実施する予定になっています。内容としましては、食育推進計画を平成20年に策定するために基礎データとした、教育委員会の調査「かまくらっ子」の項目ですとか、市民健康課でも実施した健康に関する意識調査の項目にプラスしまして、アンケート調査とその分析を行ってまいりたいと思っています。この調査を実施することによって、食育推進計画の推進に役立てていけたらと考えています。

中村会長

ありがとうございます。これまでのご説明で何かご質問はありますか。

三浦委員

私あの、今、初年度からずっとかまくら食育クラブということでボランティア活動をさせていただいている者でございますが、未だに全て自前で通信費も出ない状況で、優秀な方が入っていただいているんですけども、事務所もない、もちろんあらゆるものがないないづくしで活動して、せっかく入ってきてくださる方がいらっしゃるのになかなかうまく運ばないというのが現状で、かなりの無理を強いてまとめる現状があるので、その辺を少し何かサポートをしていただければ。もっとやる方はとてもたくさん集まってきてくださるんですけども、全て手出しで交通費、通信費、全て手出しという現状がいつまで続くのかと聞かれて、最初からやってる人間は4人ぐらいしかいなくなってしましまして、団体さんは自分の団体のことで手一杯だからということで、お声をかければ参加はしてくださるんですけども、それ以上でもなければ、それ以下でもなくてという現状で、市のご協力が得られればもっと活動も形になるんじゃないのかなというのが現実です。

中村会長

なるほど。どうですか。現実的な問題がありましたが、その食育クラブに関する予算はないわけですか。市の方は。

事務局（河合係長）

たとえば、何かのイベントに出たときに報償がある場合とない場合がある。それはどういう場合かという、今、かまくら食育クラブというのもこの鎌倉食育推進計画の中で24年度までの間で、食に関するボランティアを育てて地域で活動していただきましょうというふうにつくりあげているんですけども、その中でやっていく活動というのが市と絡んだ事業、例えば市の母子の食育事業であったりとか、市民健康課で開催しているような食育カレッジ、一般の方に向けてのものもありますが、例えば養成講座、ボランティアさんになってもらうための養成講座の、調理に絡むようなものですとか、そういうことになると、クラブ員に出向いていただいて、活動をしていただ

く。そういう場合は市の事業も絡んでいますので交通費程度の報償というのがあるんですけども、地域のイベントに参加して、例えばクッキーを焼いて、売って 100 円もらうとか、そういうように自分たちで企画して、市が絡まずにやっていくという場合は市の方から報償というのは出せないの、そこらへんが自腹を切っていただくということの大きな原因になるのかなと思います。市としてもなかなか援助はしてあげられない。ただ、活動していく中で例えば、ちらしを作る場合は紙を買ったりとかというのはできるんですけども、なかなか大きな活動をしていく中で資金を出せない。1つのイベントをやるのに何回か打ち合わせ会をしましょうといったときに、毎回毎回、交通費を出すというようなことはできない、市としてもとても心苦しいところではあるんですけども。

中村会長

そういうことなんですか。たとえば、企業からスポンサーを得るとかできない。

事務局（河合係長）

はい。実は食育クラブは、今は市と少し手をつないだ形でやっています。一つの市民団体として独立したときには、民間のサポート、賛助費として援助をもらうことはできるでしょうし、またあと今回のように、富岡商会さんのように企業さんが食材を提供しますとか、そういうようなことがあれば食材費を自分たちで持ち出しをしなくてすむということは考えられます。

中村会長

大変ですね。しかしね、難しい。

三浦委員

ないないづくしで、通信費、交通費。交通費はなくても、せめて通信費くらいと。やはり若い方でせつかく出てきてくださっても、力を出せてもお金はないと、はっきりおっしゃる方もありますし、なかなか続かないですよ。引き止めておくのにもやはり、会議するにも場所もなく、立ち話とか、ロビーを使うとか、それでもいろいろ、こう去年一年間イベントに出たりとか、何らかの成果を上げなければとやってきましたけれども、皆、すごい無理を強いているなというのが私も心苦しいというのが。何かお力添えいただけたらと思っています。

中村会長

何か、ご意見ありますか。

牧田委員

食育クラブというのは、やはり食育推進計画というものの中でかなり力を入れてつくったものだと思うんですね。もう少し、市の方も一つ予算をとってその食育クラブをある程度、自立できるところまでサポートしていただいでいくというのがやはり一番いいかなと思うんですけれども。今何人くらい、メンバーがいらっしゃるんですか。

三浦委員

だいたい20名程度、出てきてくださるんですけれども、現実には何か動いてというふうになりますと10名前後に限られるのかな。やはりボランティアの形も色々ありまして、本当に1時間だけのお手伝いならできますよという方と、私もそうなんですけれども、積極的になってこれをどう動かしていこうかという方がいる。去年一年間、どう動かしていこうかとか、大きな枠になってしまいますと、それに費やす時間というのがとても多くなってきますので、それぞれの人の差というのも大きいのでやはりフルで活動できる人は少ない。

中村会長

なるほど。イトーヨーカドーさん、何かアイデアありますか。あの、イトーヨーカドーさんはたくさんの企業が納めているでしょうから、食育に一肌脱いでもいいというような、お金を出してもいいっていうような企業はないですか。

大場委員

私ども、一店ですので、なかなかそういうことはできないんですけれど。

中村会長

熱心な企業はありますよね。食育に。

大場委員

そうですね、そういうところはあると思いますけどね。

中村会長

動き始めるまでちょっと資金が必要ですよ。

三浦委員

そうですね。あとで説明があるかもしれませんが、資料に入っているのですが、今年、農水省の食育コンクールに全額自費で出させていただいたんですけど、審査員特別賞をいただいできたんです。でも、クラブの実体がないまま、いただいできてしまって。クラブを何とかしようという人が何人か残って動いている感じで、今のうち

に何とかしなければという、ちょっと危機感がありまして。

中村会長

そうですね。

富田委員

私も実は団体会員でかまくら食育クラブに少し関わっているんですが、やはり最初の方の勢いがちょっとなくなってしまうようなところもありまして、人数が増えれば増えるだけ、いろいろな人が入ってきますし、それが今度はまとまりつかないような状態になってしまったりとか。なので、もう少し、市の方に出させていただいて、そこをまとめ役というのやはりまだまだ必要なかなって。資金面だけではなくて。どうしても事務局を立ち上げると団体化をしなければいけないとか、そういうことが出てきますので、あれだけ、一生懸命立ち上げたものだから、市の方で関わっていただけたら、少しずつ進むのかなという気がするんですが。

中村会長

どうですか。市の方は。はい、どうぞ。

事務局（相川市民健康課長）

この推進計画をつくったときにですね、まさにこの話があったんですが、最初に力を入れて、こういう形の組織と言いますか、最初は個人の方をお願いをしながらつくったというのが、これが最初の話で、市の方の考え方としては自主的なボランティア、まったくの無償のボランティアだけで考えているわけではないんですけども、やはり市民の方の力でつくっていただくクラブというのを想定しているのが実態です。ただ、今ご意見をいただいていますように、資金の問題、それからまとめ役というお話もありました。そういう意味では何らかの形での支援、クラブの毎月定例会などもやっていただけてまして、それには一応、私どもの方も職員が参加をさせていただいているのですけれども、もう少し力の入れると言いますか、もう少し具体的なそういうようなお話というのもさせていただいた方がいいのかなと思っております。あとはまあ、資金、なかなか、私どもなかなか予算化をしていうというのが難しいこともあるんですけども、活動、運営の資金だと思いますけれども、集め方というのもあるのかなと思います。その辺もですね、ざっくばらんにお話をさせていただきながら、私ども提案ができることがあれば、提案させていただこうかなというのが今、私の思っているところです。いずれにしても、クラブというのは決してなくしてはいけないと思っております、すごくいい形でできた組織だと思います。先ほど、三浦委員から、後で報告させますけれども、コンクールで表彰を受けているというような活動をしておりますので、ぜひここは残していただくというか、活動を続けていただ

きたいと思っていますので、またその辺はご相談をさせていただければと思います。

中村会長

よろしく申し上げます。塚田委員、お願いします。

塚田委員

そもそも食育が2005年に始まった経緯を考えますと、中央省庁の方で決めて、各地方自治団体の方に取り組むようになつたという経緯のときから、やはり栄養教諭の発展もずっと私も関わっているんですけども、やはり予算がない。地方自治体が火の車の中にもってきて、食育をやるようにとの声だけはかかっているけれども、予算が何もついてこなかったという中で、地方自治体がとてもご苦労なさっているのではないかというのがそもそも私の一番の心配ごとで、まったくほんとうに皆さんが食について、私たち、計画を立てたときの、鎌倉市のこの人たちがほんとう、こんなに昔から根付いた人たちが頑張ってくださいということを期待しながら作ったという計画書でもあるんですけども、やはりこう活動してみるとそういったところに問題がどうしても直面しているというところで、食育推進の問題点を、アンケートをとりましたら、ベスト3がお金がない、時間がない、知識がない。この3つが出てきたというふうに統計から出ておまして、まったくね、時間がない、お金がないというところはどうにか、ほんとうに国や地方自治体の方でしていただかないと情熱だけでは動けない現実問題がきているのかな。ほんとうにおっしゃるとおりで、それをどうしたらいいだろうなというのをやはり考えていかないといけないなというふうに思います。今、ちょっと活動ができていなくて、これから関わっていけるという鎌倉食会議の農業、生産、流通業者というところの方々が今後、もっと積極的に関わってくださって、そのところでもう少しプラスマイナス、何かいい効果が出るのではないかなというふうに期待したいところなんですけれど、ほんとうにおっしゃるとおりだなと。ちょっと名案がない。そもそもそういうことから始まってきているのでほんとうにどこか、ここ掘れ、わんわんで金貨が出てこないかなという気持ちで大変よくわかります。

中村会長

この今、計画されている食育交流会というのは何か、その解決策にはならないですか。

事務局（河合係長）

たぶんそういうところでいろいろな団体の方、事業者、生産者とかも含めて、お会いできる場ができて、そこでそれぞれ交流できれば、今度はちょっと一緒にやらないとか、何かやるときに食材の提供はできますというふうな形でどんどん大きくなって、小さな円が大きな円になっていくというのが理想とは思いますが、なかなか、そういう小さな円をつくっていくのも、大変なのかなと思っています。あとは、一か

らつくるというのではなくて、例えば今、既存の地域でのイベントというのがありますので、そういうところにうまく合体させていただいたりして、場をつくっていくというのも一つですし、イベントをうつのもまた一つだとは思いますが、何かしらのきっかけ作りの場にはなるはずだとは思っております。

中村会長

この食育交流会という、イメージというのは何かこういう会議なんですか、イベントなんですか。市民も入れるような交流会という、どういうイメージなんですか。

事務局（河合係長）

前回の推進会議の方でも、そこの交流会っていうのができていないので、皆さん、何かいいご提案ありませんかというような話をさせていただいた記憶があるんですけども、イベントを一回どこかでやればいいのか、それがきっかけとなって、ずっと継続していける何か。会議形式なのか、どうなのか、私も具体的なイメージができていないんですけども、そこら辺を含めて何かご提案いただければなというふうに思っています。

中村会長

何か、ご提案ありますか。またイベントをうつとすると、またけっこう大変で力いりますね。実行委員会をつくったり、何だりしないといけないし、運営する母体をつくっていかないとけないし、皆さんのイメージとして、どういうものかいいとお思いですか。それか、既存のイベントと共催するという方法もありますよね。健康まつりとか、農業祭、JAがやっている何か。

事務局（河合係長）

実は毎年、JAさんがやってらっしゃいます収穫まつりですとかは参加はさせていただいています。

中村会長

収穫祭りですね。

事務局（河合係長）

大きなものだと思います。あとは各地域で、例えば行政センターの駐車場を使った地域まつりや福祉バザーみたいなものがあります。町内会で、例えば深沢地域の深沢まつりっていうのがあるんですけども、それが鎌倉市内の5地域で、町内会の方たちが力を入れてお祭りをやっているというのはいくつか、あります。

中村会長

そういうのと連携するというのとは一つの方法ですね。食育クラブから何かありますか
ね。ご提案は。

三浦委員

今あの、言ったようなものにはだいたい、全て出店してきて、それも全部自分たちで。
鎌人いち場っていうのが年に 2 回、去年から NPO さんの団体の方がお集まりになっ
て、海岸の広い会場でやっているんですけども、出店料 1000 円というのが出てこな
いんです、うちは。それが現実で、自腹きって、初回は全部パンフレット等も案をつ
くったり、そういう段階から全部関わらないといけないので、皆さんにお配りするち
らし一つも全部、個人のボランティアで作り上げて。文化祭のときには J A さんか
ら野菜をいただきまして、それを袋に詰めて、皆さんにプレゼントという感じでお配
りすることで、J A さんにはとてもよくしていただきまして、そういうことも全て自
分たちで動かないとできない状態で、その野菜を取りにいく車のお代も払えませぬし、
それから袋に入れるビニール袋一つも誰が出すかというなのが現状で、回を重ねるご
とに出すお金が大きくなっている。ですから、ちょっとあまりにも、個人の負担が大
きくなりすぎて、というのがありますね。それから、今年は大きいポスターを作った
りとかもいたしましたし、皆さんにお配りするちらし等も 1 人 SE の方がいらしたの
で、いい案ができましたし、かまくら食育クラブのロゴも知り合いの書家の方に書い
ていただいたりですね、いいものができあがったんですけども、それらも皆、社会
奉仕でお願いいたしますということで頭下げてまわってる現状です。

(牧田委員ご事情により退席)

中村会長

鎌倉女子大とイトーヨーカドーさんがなされたというのはどういうことだったんでし
ょうか。

大場委員

私どもは、先生のご協力を得て生徒さんたちが、私どもの食材を使って、食育という
ことについて、お客様にお話しした。そういう形ですね。

塚田委員

ポピュレーションアプローチというのを地域の人たちに何か、健康と食というのをア
ピールしたいというのが学生たちの願いで、イトーヨーカドーさんの野菜売場に大き
な位置とポスターをいただきまして、それで 1 日 350g、それから、そのうち 7 皿くら

いを、5から7皿ぐらい食べるにはどのくらいの野菜をどういうふうに使えばいいかという基本的な知識を1か月間、展示をさせていただいてその中でイトーヨーカドーさんにいらっしゃる人たちをとおして、ポピュレーションアプローチになるんだろうかという試みだったんですが、やはり非常に難しく、ごく一部の方しかみていただけないんだということが結果的にわかって、どうやって本当に一般大衆にそういう食知識、食育というものをちょっとでも関心を持っていただくためには、なかなかちょっと、私たちの思っていたのが甘かったというところ。イトーヨーカドーさん、本当にご協力いただいてもっと何か、ヘルシー弁当の開発だとか、色々なふうにできるんじゃないか。イトーヨーカドーさんの大きな力に期待させていただいているところなんですけれども。あとちょっとついでで、私いつも言ってるのは、例えば鎌倉市って小さな市なので、鎌倉を訪れる人たちから少し資金源をいただくという、そういう例えば、鎌倉野菜を使っている飲食店のところに青い提灯を吊る下げてあるよ、それから例えば今、ちょっとポーションサイズが大きすぎて、高齢者の多い鎌倉市の中では、ちょっと今お付き合いと一緒にレストランに入ったんだけど、半分のサイズでいいわという方たちに、どうしても一食分、それが捨ててしまうというようなことにつながるので、鎌倉市のどこの飲食店でも1/2サイズを置いているよというような宣伝を対外的にして、そういう1/2サイズ持ってる場所は赤い提灯をつけて、ここでやってるよというふうにしてみたり、それからやはり食塩なんかでも外食するとしょっぱいなというのが、そういう噂も聞きますので、塩分濃度を落としてますよというところには黄色い提灯とかが、まあそういうふうな何かそんなことを鎌倉市の飲食店はしてますよとか、こんなことをやってますよみたいなのを、鎌倉を好きで訪れてくださる方にちょっとこういうところ入っていただいて、あ、鎌倉に行くところなのがあるよというような、そんなお金を落としていただけないかなとか、それから、あの鎌倉の何ですか、てくてくお散歩みたいなので何かちょっと募っていただくという、ちらしのお代があるんですけれども、そうやって集まった人にそれで1日1000円集めて、それで万歩計を最初に集合したら渡して、そしてこのコースで歩いていただきたい。その途中にヘルシー弁当を提供します。それは300円でお出ししますとか、それを食べたら、どのくらいのカロリーで、どのくらいの栄養がとれたんだけど、じゃ、建長寺からずっとまわったら、どのくらいのエネルギーが、あなたは何歩、歩いてどのくらいのエネルギーが消費されたんだ、なんていうことやって、そんなことが1日楽しみながら、食べながら、そして自分の健康に意識が向いた。それでご褒美にメタボスケールみたいな、ただ青と赤でいいですが、ここだから、何センチというロープでもちょっとかっこよくプレゼントに持って帰っていただくとかって、そんなようなことで市の外側から来ていただいた方に1日1000円コースで鎌倉めぐりしませんか、みたいなそんなようなことでお金を落としていただくとか、具体的に考えて簡単なことでそんなような企画ができればいいなんていうふうに、前から提案してるんです。アイデアを募集して、あまりお金をかけなくても皆さんに集まっていた

いて、その人たちから会費をとるみたいなの、そんなことで食に関心を持っていただくなんていう試みができないかなって思っています。他の方々からもどうぞ、提案を募っていただければと。

中村会長

安齋委員、いかがですか。

安齋委員

そうですね、今、食育クラブの話聞いて、やはり大変だなというふうにしみじみ、わかりました。やはり、そんな視点で自分でやっているというお話を聞くと、今後の他のクラブもそうだと思うんですけども、せつかくここまでやってきたのですから、長く続けてあげられるように先ほどもお話が出てきましたけれども、食材としてはたぶん、JAの方は協力して、できることはできると思いますので、そこらへんは安心していただけたら。

中村会長

そうですね。通信費とか、交通費とかっていうのはね。

三浦委員

実際の紙代は出るんです。でもアイデアの段階でこちらでやってみますよね。やりとりに関するお金は一切出ないので、一回なら、このくらいはいいやってことになるんですけども、それが1年、2年、3年、4年となってくるとなかなか。

中村会長

そうですね。だんだんくじけちゃいますよね。

安齋委員

あと、先ほど農業まつりっていうか、年に一度、市の方の後援とかありまして、今はずっと11月の最終週の日曜日ですね、今は大船中学校でここ何十年という形で呼んでもらって、収穫まつりをやっているんですけども、実際、そこではもちろん、野菜の即売会もありますし、現実に野菜の品評会ですよ、皆さん、農家が作った野菜の展示して、優劣をつけるわけではないんですけども、その展示、あと漁組さんが来られて、水産物の販売、あとは農協に関連してる部分での色々なものの販売もありますんで、その中で例えば食育クラブさんが、我々も今年、去年から鎌倉野菜でつくったスープという形でちょっと試みて、我々、私も農業の青壮年部に入ってるわけですけども、そこで、男の料理でつくってやってるわけなんですけども、見よう見まねという形で、とりあえずそんなに量はできないので、100食あるかどうかなんです

けれども、反省会の 1 杯の資金源にはしてるんですけれども、そういう形のブースがあるんで。

三浦委員

出させていただいています。

安齋委員

で、もっともっとできるんじゃないかなという部分はあるような感じはするんですよ。ちなみになんですけれども、何か、これはわからないんですけれども、今度、たぶん大船中学校の方で校舎の立替と体育館の立替があるんで、場所が変わるんじゃないかっていう話があるんですよ。で、もしも場所が変わったときにですね、またちょっと今度はいろんな形でできるんじゃないかなというふうには、今まではあの、パターンでしか場所ができなかったんですけれども、地域であったりとかものがあれば、たぶん、どこかで変わる可能性があるんで、そういう話を聞いてますので、そうすると何年後には違う場所かどこか、別なところでやる。逆にもっともっと広い場所でやって、もっと皆さんに、市民の方に周知できる場所でやれば、もう少しお客の集客率がいいんじゃないかというふうには、私個人では思っていて、どこでやるか、わからないですけれども、そんな感じでぜひ、もう少し、参加していただいて少しなりにでも、資金源をつくっていただけたら。

中村会長

はい、どうぞ。

富田委員

ネットワークという部分ではイベントがまず最初にきちゃって、イベントで精一杯になってしまって、ネットワークっていうのがなかなかできないのかなと思うのが一つなんです。なので、やはりイベントありきではなくて、何か意識を、こういう会議なり、意識を持ってまず色々な職業の人が集まって、食に関する話合いをして、そこからイベントに持っていく方がネットワークとしてはつながりやすいのかなというのが一つ。もう一つは実は何年か、3 年位前までは J A さんの農協さんの施設に絵を展示してもらっていたんですね。展示会を。絵が出ていると、うちの保護者も行くわけです。子どもの絵が出ているからって。それが何年か前から、体制が変わったからといって、断られちゃったんですね。

そんなこともあって、やはり幅広い年齢層とネットワークを持っておいたほうが、いろんな年齢の方がその場所に行かれるというところが一つあるのかなというふうに思っています。

安齋委員

ちょっと私はそっちの方までみてないんで。それ、なくなったんですか。

富田委員

はい。野菜の絵を描かせて。

安齋委員

ありましたよね。

中村会長

他にございますか。まだ発言していただけてない。大竹委員はいかがですか。

大竹委員

私やはり、ずっとお話を聞いている中で食育クラブの個人会員っていうのがどうしてもこう、団体会員さんっていうのは目的を持って集まれた既にある集まりですよ。そういう活動っていうのは、もう明確に目的があって、それはよくわかるんですけども、それに対して個人会員さんたちの目的がどこなのかっていうのが私、いまいち見えてこないんですね。それがやっぱりつらくなるかなっていう。

三浦委員

それを市の方にも、目的は何ですかって。

大竹委員

私、そこが一番のポイントかなって。目的が、皆が一致した方向に向ければ、その資金の調達方法とかも明確になるのかなって、そこがどうしてもわかりませんので。すみません。それ以上のことが私にもよくわからないんですけども。

中村会長

なるほど。他にございますか。はい、どうぞ。

藤本委員

私もまだ。この前に資料を送っていただきまして、そして今また、新たに食育クラブの方の現状を伺って、ほんとうにあの、奉仕の精神で私自身、なさってらっしゃるので、現状としては運営が本当に大変だなというのをあまり存じ上げませんでしたけれど、運営に関して、やはり金銭面のことがすごいネックになってまいりますので、やはりこう伺ってても、市の方から何か、援助が、補助がとは思いますが、やはりそれは財政が、市の方でも次年度は予算も、来年度は決まっています、臨時予算をまたそ

ちらの方になると簡単なことではないと思います。ただ、市民健康課の方々も個人的には何か援助してさしあげたいと思っていらっしゃるのかなと思うんですけども、私はこの件に関しては大竹委員さんと同じで、コメントできないという立場なんですけれど。今回、送っていただいた資料と、今伺ったことで意見を述べさせていただきますと、この20年度は確か、夏の7月と次の1月に会議がありまして、そのときはこの緑色のリーフレットの作成のために、色々検討をして、先生方の方から、学問的な見地からのアドバイスがあったと思うんですね。それで資料があって、厚生省の方の統計結果というので、わりと健康診断の結果というのが出されてまして、それがこう、若年層と壮年層とか、それから高齢者というのに分かれてまして、冬1月のときに意外と青年層とか、壮年層の数値ってというのが危険区域にあるなということを感じて、1月の会議のときにこういった方々への向けてのアプローチをお願いしたいということで意見として申し上げましたら、それを一つの意見として取り上げてくださったのが、この20年と21年度のかまくら食育カレッジの実績を拝見しますと、例えば、別表2の方で男性向けの成人男性のらくらくクッキングですか、これがわりとたいいてい若年層向けとかのものが多い中で、若年層みたいな小学生とか、中学生とかですね、とても多いのに、これが入ってまして、参加率を見ますと100%でこれは恐らく、もうリタイアされた高齢者の方が出席されたんじゃないかなと思うんですけど、こういった取り組みをなさっているというのは本当にいいことだなと思って、現実に22年度の取り組みについての案としましては上の方で青年期や壮年期を対象とした生活習慣病予防を含めて掲げていらっしゃるということで、あの小学生とか中学生というのは特に小学生とか幼稚園あたりは学校や幼稚園でそういうことを学んだり、また教える方も指導する機会があると思うんですね。それが青年期とか、壮年期がないということで実際、これを掲げていらっしゃるということは来年度それを本当に具体的に期待したいなと思いますし、鎌倉女子大の塚田先生もおっしゃってましたけれども、やはり青年層のこれからの、やはり社会をつくっていく、大事なからですので、こういう方々にも市の方からアプローチしていただきたいなということ色んな資料を拝見しながら思いました。で、一つ質問なんですけども、今回、送付いただいた、そのかながわ食育サミットですか、これなんですけど、恐らくこれ1枚が何かちらしとして配布されてるんでしょうね。で、こちらは、パラダイムシフトの方はやはり、一般にはと思うんですけども、私の方が見落としているかもしれませんけれども、このパラダイムシフトの方をみますと、開始時間ですね、日時ははっきり、9時30分からで、夕方6時までとわかるんですけど、こちらだけだとその終了時刻が書いてないんですよ。ですから、もうこれは訂正はもう、間に合わせるのは無理かもしれないんですけども、午前中で終わるのかなと思う方もありますし、4時ごろまでかなというふうにちょっとここのところ、何か、6時までといたら、けっこう時間がありますので、午後からでも行ってみようかという方があるんじゃないかなと思うので、そこが気になります。以上です。

中村会長

ありがとうございました。えっと、時間の都合がございますので。何らかの形で食育交流会というのがちょっと、まず、ここが鍵になりそうですよね。そのへんを組織化していただきたいことでもあります。では、次にその他であります。事務局の方からご報告をお願いします。

事務局（河合係長）

では、ご報告が二点ございます。資料2と3です。先ほど、三浦委員から話が出ました。こちらはあの食育クラブの方が、市の方から援助もなく、自腹をきっていただいで頑張っているんですけども、その中でやはりこういうコンクールに出していいですかという事で、クラブの方からご提案いただきました。地域に根ざした食育コンクール2009というのが21年11月6日締め切りで、実際はですね、2月の13日に表彰式がございまして、こちら211例という応募があった中で、食育クラブが食育推進会議の審査委員会奨励賞という特別賞なんですけれども、受賞しました。ご報告させていただきます。

中村会長

はい。ありがとうございました。

事務局（河合係長）

で、もう一つ、資料3の方ですが、これまた今、藤本委員の方から、ご意見ありましたけれども、かながわ食育サミット in 鎌倉、これは第5回目になりますけれども、第1回目が鎌倉で実施され、そのあと、平塚ですとか、他市をいくつかまわり、第5回が鎌倉に戻ってきました。かながわ食育サミット in 鎌倉実行委員という市民団体さんがいらっしやいまして、こちらの方々が主催で、私ども鎌倉市が共催という形で3月22日、鎌倉生涯学習センターで半日かけてイベントをします。実は、藤本委員がおっしゃられたこのちらし、かながわ食育サミット in 鎌倉、このちらしの裏が一番最後のページについてます。横のスケジュールが実はついていて、これちょっと刷り方が悪かったんですけども、これが印刷されて、ピンク色のちらしなんですけれども、生涯学習センターですとか、色々なところに少し置かせていただいています。ホームページを見ていただきますと、このちらしが載っています。あと、このイベントの中でお弁当レシピのコンクールがありまして、そちらへの応募などもできるように整えられているようです。この二点の報告をさせていただきました。

中村会長

以上、二点について、何かコメントはございますか。

(質疑・応答なし)

中村会長

サミットには食育クラブも参加されるんですか。

三浦委員

いや、しません。

中村会長

食育サミットはあれですね。スポンサーが麒麟さん、カゴメさんついてるんですね。何か、ご質問は。ここ全館使うんですか。

事務局（河合係長）

こちらはですね、地下のギャラリーと 300 人くらい入る大きなホールでイベントありまして、スケジュールにあります右側の講演関係をホールでやります。あとはギャラリーで色々な協賛企業ですとか、パネル展示で参加する、団体さんがいらっしゃるんですけれども、そういう方たちがブースを仕切って、展示をします。ギャラリーとホール1か所だけ、集会室を使うこともあるようですけれども全館ではない。

中村会長

ございませんか。

(質疑・応答なし)

中村会長

なければ。事務局のほうから何か、他にあれば。

事務局（河合係長）

では、本日の会議録についてですけれども、テープから起こしました後に委員の皆様にご発言についてご確認をいただくため、メールまたはFAXで送らせていただきます。お戻しいただきました内容を修正して、整えさせていただきます。よろしくお願ひします。

中村会長

本日の議事内容はだいたい終わりなのですが、皆さん方、何かご意見ございますか。お金の問題って難しい問題で。これも、これから食育交流会で何とか打開策ができればいいなと思っております。これからもこの活動が途絶えることなく、いくことでと

思っております。では本日はこれで議題も終わりましたので、少し早いですが、終了させていただきますと思います。本日はありがとうございました。